****心理学部　心理学科****

２０１３年度生用

明治学院大学履修要項

～履修の方法を知るために～

2021

Meiji Gakuin University

2013 年度生

目　次

はじめに ……

情報の伝達 ……

学修の手引き ……

カリキュラム ……
単位制 ……
履修 ……
授業 ……
試験 ……
成績 ……
卒業と学位 ……
単位認定 ……
単位互換 ……

全学部共通の学修の手引き等がありますので、そちらをご覧ください

心理学部心理学科

2013 年度生

明治学院共通科目履修の方法 …… ２５
心理学科履修の方法 …… ４１
公認心理師 …… ４５

諸資格 …… ７９
１．社会福祉主事 …… ８１
２．児童福祉司 …… ８３

明治学院共通科目
（心理学科）

本学の授業科目は、学科科目と共通科目によって構成されており、それぞれについて卒業のために必要とされる取得単位数等が定められている。学生は、学科の定めるところに従いつつ、４年間にわたる自らの学修計画を決定しなければならない。以下は、2004年度より新設された「明治学院共通科目」の科目名と履修上の諸注意である。学生諸君には、下記の記載事項を精読して、履修登録上の事故を未然に防ぐとともに、自らの教養を高めるために有用な授業科目を見出すことを切に期待する。

[履修上の注意]

①Ａ・Ｂ及び１～８は独立した科目であり、それぞれについて単位を取得しなければならない。なお、原則としてＡ・Ｂは、同一曜時限の同一担当者のｸﾗｽを履修することとし、同一曜時限に複数ｸﾗｽが開講されている場合にも、いずれか１ｸﾗｽを定めて履修するものとする。

②以下の表の配当年次とは、その科目を履修できる下限の年次を示したものである。１年次配当科目とは、１年次以上の学生が履修できることを意味している。

③特に指示がある科目を除き、同一科目が異なる曜時限に複数開講されている場合でも、履修できるのは1つだけである。

（例:「ｷﾘｽﾄ教の諸相1」が月曜1限と月曜2限に開講されている場合、履修できるのは片方のみ）

④取得可能な単位数は、学科ごとに定められている。『履修要項』での説明を参照すること。

⑤履修可能なｸﾗｽの開講学期等については、Port Hepburnの開講科目情報　時間割表で、各自が所属する学科・入学年度の時間割表を参照すること。

[科目ｺｰﾄﾞについて]

明治学院共通科目には科目ｺｰﾄﾞが付番される。その意味は下記のとおりとなる。

Ｃ・Ｄ・Ｅ・Ｈ・Ｉ	＋	１ ～ ３	＋	０ ～ ９ ＋ ０ ～ ９ ＋ １ ～ ８
科目群ｲﾆｼｱﾙ		配当年次（千の位）		科目群内の当該科目固有番号（百の位以下）

科目例：C1011 ｷﾘｽﾄ教の基礎Ａ
　　D1001 ｷﾘｽﾄ教の諸相１

[C 群科目]

必修および選択必修科目。以下の基本科目 1～3 について、それぞれ所定の単位を取得すること。

１．ｷﾘｽﾄ教基本科目

全学必修のｷﾘｽﾄ教関連科目。Ａ・Ｂそれぞれ２単位、計４単位を取得しなければならない。

配当年次	科　目　名	単位数	開講学期		科　目　名	単位数	開講学期
1	C1011 ｷﾘｽﾄ教の基礎 A	2	春		C1012 ｷﾘｽﾄ教の基礎 B	2	秋

２．外国語基本科目

必修である英語科目と選択必修の初習語科目。

- **英語科目については、「英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ」１Ａ・Ｂ、２Ａ・Ｂそれぞれ各1単位、計4単位を取得しなければならない。**なお、特別に高度な英語運用能力を有すると認定された学生については、同科目の単位取得を免除されることがある。
- 初習語とは、ﾌﾗﾝｽ語、中国語、ﾄﾞｲﾂ語、ｽﾍﾟｲﾝ語、韓国語をいう。**いずれか1言語を選択し、その言語について1Ａ・Ｂ、２Ａ・Ｂの各1単位、計4単位を取得しなければならない。**可能な限り1学年次での履修と単位取得が望ましい。
- 「初習英語」１Ａ・Ｂ、２Ａ・Ｂは、高等学校等で英語を学んでいない者だけが履修できる。なお、この科目は横浜校舎のみの開講である。
- 「日本語」1Ａ・Ｂ、2Ａ・Ｂは留学生のための必修外国語科目であり、一般学生は履修することができない。留学生は「日本語1Ａ・Ｂ、２Ａ・Ｂ」４単位を必修とし、さらに日本語以外の言語（同一言語）から４単位を必修とする。
- 原則として、入学時に選択した「初習語」は他の言語へ変更することはできない。ただし、特別の事情があり、オリエンテーション期間に申し出た者については、科目責任者が判断する。

配当年次	科　目　名	単位数	開講学期		科　目　名	単位数	開講学期
1	C1111 英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ 1A	1	春		C1112 英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ 1B	1	秋
1	C1113 英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ 2A	1	春		C1114 英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ 2B	1	秋
1	C1131 初習英語 1A	1	春		C1132 初習英語 1B	1	秋
1	C1133 初習英語 2A	1	春		C1134 初習英語 2B	1	秋
1	C1211 ﾌﾗﾝｽ語 1A	1	春		C1212 ﾌﾗﾝｽ語 1B	1	秋
1	C1213 ﾌﾗﾝｽ語 2A	1	春		C1214 ﾌﾗﾝｽ語 2B	1	秋
1	C1311 中国語 1A	1	春		C1312 中国語 1B	1	秋
1	C1313 中国語 2A	1	春		C1314 中国語 2B	1	秋
1	C1411 ﾄﾞｲﾂ語 1A	1	春		C1412 ﾄﾞｲﾂ語 1B	1	秋
1	C1413 ﾄﾞｲﾂ語 2A	1	春		C1414 ﾄﾞｲﾂ語 2B	1	秋
1	C1511 ｽﾍﾟｲﾝ語 1A	1	春		C1512 ｽﾍﾟｲﾝ語 1B	1	秋
1	C1513 ｽﾍﾟｲﾝ語 2A	1	春		C1514 ｽﾍﾟｲﾝ語 2B	1	秋
1	C1711 韓国語 1A	1	春		C1712 韓国語 1B	1	秋
1	C1713 韓国語 2A	1	春		C1714 韓国語 2B	1	秋
1	C1811 日本語 1A	1	春		C1812 日本語 1B	1	秋
1	C1813 日本語 2A	1	春		C1814 日本語 2B	1	秋

・英語以外の言語について、既習している言語を選択する際には必ず教務課窓口に相談すること。

３．情報処理基本科目

ｺﾝﾋﾟｭｰﾀに関する選択必修科目。

・「ｺﾝﾋﾟｭｰﾀﾘﾃﾗｼｰ1」は入門ｸﾗｽ、「ｺﾝﾋﾟｭｰﾀﾘﾃﾗｼｰ2」は初級ｸﾗｽである。**学生は、自らの習熟度を判断して1または2を選択し、２単位を取得しなければならない。**なお、それぞれの授業内容についてはｼﾗﾊﾞｽを参照すること。

・入学時に中級以上の技能を有する学生については、Ｅ群科目「ｺﾝﾋﾟｭｰﾀﾘﾃﾗｼｰ研究」1Ａ・Ｂ、2Ａ・Ｂから2単位を取得することにより、必修の2単位に振り替えることができる。

配当年次	科　目　名	単位数	開講学期		科　目　名	単位数	開講学期
1	C1911 ｺﾝﾋﾟｭｰﾀﾘﾃﾗｼｰ 1	2	春または秋		C1912 ｺﾝﾋﾟｭｰﾀﾘﾃﾗｼｰ 2	2	春または秋

[D 群科目]

分野別の基礎的講義科目。以下の諸科目から自由に選択して履修することができる。多様な科目を選択してもよいし、同一科目を集中的に選択してもよい。学生それぞれの関心に即して履修計画を立てることが可能である。

・それぞれの科目の科目番号ごとの内容はｼﾗﾊﾞｽに（授業テーマを付して）公表される。履修に際してはそれらを参照すること。

１．人文科学系科目

配当年次	科　目　名	単位数	開講学期		科　目　名	単位数	開講学期
1	D1001～1008 ｷﾘｽﾄ教の諸相 1～8	各 2	春・秋		D1011～1018 宗教史 1～8	各 2	春・秋
1	D1021～1028 哲学 1～8	各 2	春・秋		D1031～1037 倫理学 1～7	各 2	春・秋
1	D1041～1048 論理学 1～8	各 2	春・秋		D1051～1054 言語の科学 1～4	各 2	春・秋
1	D1061～1068 心理学 1～8	各 2	春・秋		D1071～1072 教育学 1～2	各 2	春・秋
1	D1081～1088 芸術学 1～8	各 2	春・秋		D1091～1098 日本文学 1～8	各 2	春・秋
1	D1101～1108 ﾖｰﾛｯﾊﾟ言語圏の文学 1～8	各 2	春・秋		D1111～1116 ｱｼﾞｱ言語圏の文学 1～6	各 2	春・秋
1	D1121～1128 日本文化論 1～8	各 2	春・秋		D1131～1138 ﾖｰﾛｯﾊﾟ言語圏の文化 1～8	各 2	春・秋
1	D1141～1148 ｱｼﾞｱ言語圏の文化 1～8	各 2	春・秋				

・３年次以上で「哲学（専）１・２」を履修するためには、「哲学1～8」「倫理学1～7」「論理学1～8」のうち、同一名称の科目２科目（計４単位）を取得済でなければならない。

・「Ｄ1061～1068心理学１～８」は他学科の学生が心理学を学ぶための科目のため、心理学科生は受講できない。

２．社会科学系科目

配当年次	科　目　名	単位数	開講学期		科　目　名	単位数	開講学期
1	D1201～1202 法学（日本国憲法を含む）1～2	各 2	春・秋		D1211～1212 政治学 1～2	各 2	春・秋
1	D1221～1228 社会学 1～8	各 2	春・秋		D1231～1232 社会福祉学 1～2	各 2	春・秋
1	D1241～1242 経済学 1～2	各 2	春・秋		D1251～1254 統計学 1～4	各 2	春・秋
1	D1261～1268 歴史学 1～8	各 2	春・秋		D1271～1278 地理学 1～8	各 2	春・秋
1	D1281～1282 文化人類学 1～2	各 2	春・秋		D1291～1294 社会科学概論 1～4	各 2	春・秋

３．自然科学系科目

配当年次	科　目　名	単位数	開講学期		科　目　名	単位数	開講学期
1	D1401～1408 数学 1～8	各 2	春・秋		D1411～1416 物理学 1～6	各 2	春・秋
1	D1421～1426 化学 1～6	各 2	春・秋		D1431～1437 生物学 1～7	各 2	春・秋
1	D1441～1442 生命科学 1～2	各 2	春・秋		D1451～1454 情報科学 1～4	各 2	春・秋

４．健康・ｽﾎﾟｰﾂ科学系科目

配当年次	科　目　名	単位数	開講学期		科　目　名	単位数	開講学期
1	D1601～1602 健康科学 1～2	各 2	春・秋		D1611～1612 ｽﾎﾟｰﾂ科学 1～2	各 2	春・秋
1	D1621～1624 ｽﾎﾟｰﾂ方法学 1～4	各 2	春・秋				

・履修に際しては、『明治学院共通科目　健康・ｽﾎﾟｰﾂ科学関連科目履修の手引き』を参照すること。

５．総合教育系科目

配当年次	科　目　名	単位数	開講学期		科　目　名	単位数	開講学期
1	D1801～1808 現代世界と人間 1～8	各 2	春・秋		D1811～1813 明治学院研究 1～3	各 2	春・秋
1	D1831～1836 環境学 1～6	各 2	春・秋		D1841～1848 ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ学 1～8	各 2	春・秋
1	D1851 ﾗｲﾌﾃﾞｻﾞｲﾝ講座 1	2	春または秋		D1871～1873 現代平和研究 1～3	各 2	春・秋
2	D2821～2822 ｵﾙｶﾞﾝ実習 1～2	各 2	春・秋		D2861 ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ 1	2	春または秋
2	D2852 ﾗｲﾌﾃﾞｻﾞｲﾝ講座 2	2	春または秋				
3	D3853～3854 ﾗｲﾌﾃﾞｻﾞｲﾝ講座 3～4	各 2	春・秋				

・「ｵﾙｶﾞﾝ実習1～2」は実習体験型の科目であり、その実施時期や授業形態について特別な条件が付されている。

・「D1871～1872現代平和研究1～2」は、前年度までに「D1804現代世界と人間4」を単位取得していないこと。

[E 群科目]

実験・実習・演習的科目。履修者数が制限されることがあるので、履修希望者はｼﾗﾊﾞｽを参照すること。

※Ａ・Ｂは独立した科目であるが、可能な限り同一曜時限の同一担当者のｸﾗｽを履修することとし、同一曜時限に複数ｸﾗｽが開講されている場合にも、いずれか１ｸﾗｽを定めて履修するものとする。

１．「特別演習○○語」

・Ｃ群の２で選択した初習語と同じ言語について、さらに学修機会を増やすことを希望する学生のためのｲﾝﾃﾝｼﾌﾞｸﾗｽである。

・原則として「初習語」1Ａ・Ｂ、2Ａ・Ｂと同一年次に履修するものとする。

・この科目の単位取得をもって、Ｃ群の初習語必修単位に振り替えることはできない。

配当年次	科　目　名	単位数	開講学期		科　目　名	単位数	開講学期
1	E1101 特別演習ﾌﾗﾝｽ語 A	1	春		E1102 特別演習ﾌﾗﾝｽ語 B	1	秋
1	E1111 特別演習中国語 A	1	春		E1112 特別演習中国語 B	1	秋
1	E1121 特別演習ﾄﾞｲﾂ語 A	1	春		E1122 特別演習ﾄﾞｲﾂ語 B	1	秋
1	E1131 特別演習ｽﾍﾟｲﾝ語 A	1	春		E1132 特別演習ｽﾍﾟｲﾝ語 B	1	秋
1	E1151 特別演習韓国語 A	1	春		E1152 特別演習韓国語 B	1	秋

・上記科目は横浜校舎で開講される。

２．「○○語の基礎」

・Ｃ群の２で選択した初習語以外の言語について、基礎的な学修を希望する学生のためのｲﾝﾃﾝｼﾌﾞｸﾗｽである。したがって、Ｃ群の２で選択した初習語と同一の言語について、以下の科目を履修することはできない。

・年次を問わず履修することができる。

・この科目の単位取得をもって、Ｃ群の初習語必修単位に振り替えることはできない。

配当年次	科　目　名	単位数	開講学期		科　目　名	単位数	開講学期
1	E1201 ﾌﾗﾝｽ語の基礎 A	1	春		E1202 ﾌﾗﾝｽ語の基礎 B	1	秋
1	E1211 中国語の基礎 A	1	春		E1212 中国語の基礎 B	1	秋
1	E1221 ﾄﾞｲﾂ語の基礎 A	1	春		E1222 ﾄﾞｲﾂ語の基礎 B	1	秋
1	E1231 ｽﾍﾟｲﾝ語の基礎 A	1	春		E1232 ｽﾍﾟｲﾝ語の基礎 B	1	秋
1	E1241 ﾛｼｱ語の基礎 A	1	春		E1242 ﾛｼｱ語の基礎 B	1	秋
1	E1251 韓国語の基礎 A	1	春		E1252 韓国語の基礎 B	1	秋
1	E1261 ｲﾀﾘｱ語の基礎 A	1	春		E1262 ｲﾀﾘｱ語の基礎 B	1	秋
1	E1263 ｱﾗﾋﾞｱ語の基礎 A	1	春		E1264 ｱﾗﾋﾞｱ語の基礎 B	1	秋
1	E1265 ﾀｲ語の基礎 A	1	春		E1266 ﾀｲ語の基礎 B	1	秋

３．「○○語研究」・「○○語特別研究」

・英語およびＣ群の２で選択した初習語について、次年度以降も学修を継続することを希望する学生のためのｲﾝﾃﾝｼﾌﾞｸﾗｽである。「○○語研究」1Ａ・Ｂ、2Ａ・Ｂは２年次から、「○○語研究」3Ａ・Ｂは３年次以上から履修が可能となる。いずれも各学期2単位科目である。

・履修に際し一定の語学力が必要とされるため、「英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ」1A・B、2A・Bの計4単位を未取得の者が、以下の「英語研究」を履修することは望ましくない。また、「英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ」が必修ではない学生が履修を希望する場合は、初回の授業に必ず出席して履修許可を得ることが必要である。
・C群の２で選択した「初習語」1A・B、2A・Bの計4単位を未取得の者が、以下の「○○語研究」を履修することは望ましくない。
・「英語特別研究」101、102は１年次で「英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ」に加えてﾘﾃﾗｼｰ（読み・書き）を強化することを希望する学生のためのｲﾝﾃﾝｼﾌﾞｸﾗｽである（英文学科、国際学科、国際キャリア学科を除く）。
・「英語特別研究」111～118、「ﾌﾗﾝｽ語特別研究」111～112、「ﾄﾞｲﾂ語特別研究」111～112、「ｽﾍﾟｲﾝ語特別研究」111～112、「韓国語特別研究」111～112、「中国語特別研究」111～112は留学を希望する学生を支援する留学準備のためのｲﾝﾃﾝｼﾌﾞｸﾗｽである。履修に際しては一定の語学力を必要とされるため、初回の授業に必ず出席して履修許可を得ることが必要である。
・これらの科目の単位取得をもって、C群の初習語必修単位に振り替えることはできない。

配当年次	科　目　名	単位数	開講学期		科　目　名	単位数	開講学期
2	E2401 英語研究 1A	2	春		E2402 英語研究 1B	2	秋
2	E2403 英語研究 2A	2	春		E2404 英語研究 2B	2	秋
3	E3405 英語研究 3A	2	春		E3406 英語研究 3B	2	秋
2	E2411 ﾌﾗﾝｽ語研究 1A	2	春		E2412 ﾌﾗﾝｽ語研究 1B	2	秋
2	E2413 ﾌﾗﾝｽ語研究 2A	2	春		E2414 ﾌﾗﾝｽ語研究 2B	2	秋
3	E3415 ﾌﾗﾝｽ語研究 3A	2	春		E3416 ﾌﾗﾝｽ語研究 3B	2	秋
2	E2421 中国語研究 1A	2	春		E2422 中国語研究 1B	2	秋
2	E2423 中国語研究 2A	2	春		E2424 中国語研究 2B	2	秋
3	E3425 中国語研究 3A	2	春		E3426 中国語研究 3B	2	秋
2	E2431 ﾄﾞｲﾂ語研究 1A	2	春		E2432 ﾄﾞｲﾂ語研究 1B	2	秋
2	E2433 ﾄﾞｲﾂ語研究 2A	2	春		E2434 ﾄﾞｲﾂ語研究 2B	2	秋
3	E3435 ﾄﾞｲﾂ語研究 3A	2	春		E3436 ﾄﾞｲﾂ語研究 3B	2	秋
2	E2441 ｽﾍﾟｲﾝ語研究 1A	2	春		E2442 ｽﾍﾟｲﾝ語研究 1B	2	秋
2	E2443 ｽﾍﾟｲﾝ語研究 2A	2	春		E2444 ｽﾍﾟｲﾝ語研究 2B	2	秋
3	E3445 ｽﾍﾟｲﾝ語研究 3A	2	春		E3446 ｽﾍﾟｲﾝ語研究 3B	2	秋
2	E2451 ﾛｼｱ語研究 1A	2	春		E2452 ﾛｼｱ語研究 1B	2	秋
2	E2453 ﾛｼｱ語研究 2A	2	春		E2454 ﾛｼｱ語研究 2B	2	秋
3	E3455 ﾛｼｱ語研究 3A	2	春		E3456 ﾛｼｱ語研究 3B	2	秋
2	E2461 韓国語研究 1A	2	春		E2462 韓国語研究 1B	2	秋
2	E2463 韓国語研究 2A	2	春		E2464 韓国語研究 2B	2	秋
3	E3465 韓国語研究 3A	2	春		E3466 韓国語研究 3B	2	秋
1	E1401 英語特別研究 101	2	春		E1402 英語特別研究 102	2	秋
1	E1411 英語特別研究 111	2	秋		E1412 英語特別研究 112	2	春
1	E1413 英語特別研究 113	2	秋		E1414 英語特別研究 114	2	春
1	E1415 英語特別研究 115	2	秋		E1416 英語特別研究 116	2	春
1	E1417 英語特別研究 117	2	秋		E1418 英語特別研究 118	2	春
1	E1421 ﾌﾗﾝｽ語特別研究 111	2	秋		E1422 ﾌﾗﾝｽ語特別研究 112	2	春
1	E1431 ﾄﾞｲﾂ語特別研究 111	2	秋		E1432 ﾄﾞｲﾂ語特別研究 112	2	春
2	E2445 ｽﾍﾟｲﾝ語特別研究 111	2	春		E2446 ｽﾍﾟｲﾝ語特別研究 112	2	秋
1	E1451 中国語特別研究 111	2	秋		E1452 中国語特別研究 112	2	春
1	E1461 韓国語特別研究 111	2	秋		E1462 韓国語特別研究 112	2	春

４．西洋古典語研究

・以下は「英語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ」1A・B、2A・Bおよび「初習語」1A・B、2A・Bの単位の取得・未取得に関わりなく履修できる。

配当年次	科　目　名	単位数	開講学期		科　目　名	単位数	開講学期
1	E1301 ｷﾞﾘｼｱ語研究 A	2	春		E1302 ｷﾞﾘｼｱ語研究 B	2	秋
1	E1311 ﾗﾃﾝ語研究 A	2	春		E1312 ﾗﾃﾝ語研究 B	2	秋

５．留学生関連科目

・以下は留学生のための科目であり、一般学生は履修できない。

・留学生の履修については、別途ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ等の説明を参照し、その指導に従うこと。

配当年次	科　目　名	単位数	開講学期		科　目　名	単位数	開講学期
1	E1501 日本の歴史と文化 A	2	春		E1502 日本の歴史と文化 B	2	秋
1	E1511 日本の社会と政治経済 A	2	春		E1512 日本の社会と政治経済 B	2	秋
1	E1521 日本の科学と技術 A	2	春		E1522 日本の科学と技術 B	2	秋
2	E2541 日本語研究 1A	2	春		E2542 日本語研究 1B	2	秋
2	E2543 日本語研究 2A	2	春		E2544 日本語研究 2B	2	秋
2	E2545 日本語研究 3A	2	春		E2546 日本語研究 3B	2	秋
1	E1551 集中日本語 1	4			E1552 集中日本語 2	4	
1	E1553 集中日本語 3	4			E1554 集中日本語 4	4	
1	E1555 集中日本語 5	4			E1556 集中日本語 6	4	

・「集中日本語1～6」の６科目は、外国人留学生のうち特に《交換留学生（UC・ISP）》だけが履修できる科目である。

６．「異文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ研究」

・以下の科目は、上記５の留学生科目のうち、「日本の歴史と文化」Ａ・Ｂおよび「日本の社会と政治経済」Ａ・Ｂにおいて、留学生の授業に一般学生が参加するために設けられた科目である。

・この科目の履修資格と履修上の要件についてはｼﾗﾊﾞｽを参照すること。

配当年次	科　目　名	単位数	開講学期		科　目　名	単位数	開講学期
1	E1531 異文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ研究 A	2	春		E1532 異文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ研究 B	2	秋

７．情報処理関連科目

・以下はｺﾝﾋﾟｭｰﾀﾘﾃﾗｼｰ1および2の発展的学修科目である。

配当年次	科　目　名	単位数	開講学期		科　目　名	単位数	開講学期
1	E1601 ｺﾝﾋﾟｭｰﾀﾘﾃﾗｼｰ研究 1A	2	春		E1602 ｺﾝﾋﾟｭｰﾀﾘﾃﾗｼｰ研究 1B	2	秋
1	E1603 ｺﾝﾋﾟｭｰﾀﾘﾃﾗｼｰ研究 2A	2	春		E1604 ｺﾝﾋﾟｭｰﾀﾘﾃﾗｼｰ研究 2B	2	秋

８．自然科学関連科目

・以下は自然科学の方法論を学ぶための科目であり、履修者による実験を中心に授業が行われる。

・履修に際してはｼﾗﾊﾞｽを参照すること。

配当年次	科　目　名	単位数	開講学期		科　目　名	単位数	開講学期
1	E1701 物理学方法論 A	2	春		E1702 物理学方法論 B	2	秋
1	E1711 化学方法論 A	2	春		E1712 化学方法論 B	2	秋
1	E1721 生物学方法論 A	2	春		E1722 生物学方法論 B	2	秋

９．健康・ｽﾎﾟｰﾂ科学関連科目

・学期中に開講される学内実習（1A、2A、3A）と長期休暇期間中に開講される学外実習（1B、2B、3B）とをセットで履修する科目である。

・履修に際しては、ｼﾗﾊﾞｽ『明治学院共通科目　健康・ｽﾎﾟｰﾂ科学関連科目履修の手引き』を参照すること。

配当年次	科　目　名	単位数	開講学期		科　目　名	単位数	開講学期
1	E1801 ｼｰｽﾞﾝｽﾎﾟｰﾂ研究 1A	2	春		E1802 ｼｰｽﾞﾝｽﾎﾟｰﾂ研究 1B	2	春
1	E1803 ｼｰｽﾞﾝｽﾎﾟｰﾂ研究 2A	2	春		E1804 ｼｰｽﾞﾝｽﾎﾟｰﾂ研究 2B	2	春
1	E1805 ｼｰｽﾞﾝｽﾎﾟｰﾂ研究 3A	2	秋		E1806 ｼｰｽﾞﾝｽﾎﾟｰﾂ研究 3B	2	秋

10．総合教育関連科目

・「教養原論」Ａ・Ｂは学問諸分野の基礎的な技能を習得するための演習的科目である。

・「ﾜｰｸｷｬﾝﾌﾟ」Ａ・Ｂは実習体験型の科目であり、その実施時期や授業形態について特別な条件が付されている。

・履修に際してはｼﾗﾊﾞｽを参照すること。

・「ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ実習」101・201は夏季集中で行われる実習体験型の科目であり、その実施時期や授業形態については特別な条件が付されている。

・「ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ特別研究」101～202は「ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ実習」101・201の事前研修を行う科目である。

・「ｱｶﾃﾞﾐｯｸﾘﾃﾗｼｰ研究」はレポート・論文書法のための演習的科目である。

配当年次	科　目　名	単位数	開講学期		配当年次	科　目　名	単位数	開講学期
1	E1901 教養原論 A	2	春		1	E1902 教養原論 B	2	秋
1	E1911 野外地域研究 A	2			1	E1912 野外地域研究Ｂ	2	
1	E1921 ﾜｰｸｷｬﾝﾌﾟ A	2			1	E1922 ﾜｰｸｷｬﾝﾌﾟ B	2	
2	E2931 ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ実習 101	2			2	E2932 ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ実習 201	2	
1	E1941 ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ特別研究 101	2	秋		2	E2942 ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ特別研究 102	2	春
1	E1943 ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ特別研究 201	2	秋		2	E2944 ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ特別研究 202	2	春
1	E1951 ｱｶﾃﾞﾐｯｸﾘﾃﾗｼｰ研究 1	2	春または秋		1	E1952 ｱｶﾃﾞﾐｯｸﾘﾃﾗｼｰ研究 2	2	春または秋
1	E1953 ｱｶﾃﾞﾐｯｸﾘﾃﾗｼｰ研究 3	2	春または秋					

11. 特別学科科目

・学科によっては、(注) に記載された資格の要件単位となる。

配当年次	科　目　名	単位数	開講学期		配当年次	科　目　名	単位数	開講学期
1	社会学概論 A　　注１･注２	2	春		1	社会学概論 B　　注１･注２	2	秋

注１：中学（社会）、高校（公民）教育職員免許状取得のために履修する場合は「教職課程履修要項（諸資格）」も参照すること。

注２：心理学科生はフリーゾーン科目の単位として取り扱われる。詳しくは学科の履修の方法の項を参照すること。

12. 短期留学認定科目

・以下は、本学と協定を結ぶ海外校への短期留学について、本学が単位を認定するための科目である。短期留学を行った者以外が単位を取得することはできない。

・留学先によって別途配当年次が定められている場合があるので、必ず「短期留学ﾊﾝﾄﾞﾌﾞｯｸ」を確認すること。

・　これらの科目は、各学科で定める年間履修単位数の上限には含まれません。

配当年次	科　目　名	単位数		科　目　名	単位数
1	E1991 ｵｾｱﾆｱ研究（短期留学）	4		E1992 ｲｷﾞﾘｽ研究（短期留学）	4
2	E2991 ｱﾒﾘｶ研究（短期留学）	4		E2992 ﾖｰﾛｯﾊﾟ研究（短期留学）	4
2	E2993 韓国研究（短期留学）	4		E2994 ﾀｲ研究（短期留学）	4
2	E2995 ｽﾍﾟｲﾝ研究（短期留学）	4		E2996 中国研究（短期留学）	4
2	E2997 ﾄﾞｲﾂ研究（短期留学）	4		E2998 ﾌﾗﾝｽ研究（短期留学）	4

13. 海外ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ関連科目

・以下は、海外ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟに参加した学生が、単位を取得することができる科目である。

・ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ先によって別途配当年次が決められている場合があるので、必ず出願時に確認すること。

・これらの科目は各学科で定める年間履修単位数の上限には含まれません。

・これらの科目はP･F評価となるため、GPAには含まれません。

配当年次	科　目　名	単位数	開講学期	配当年次	科　目　名	単位数	開講学期
1	E1961 海外ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ課題研究 A	2	春または秋	1	E1962 海外ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ課題研究 B	2	春または秋
1	E1963 海外ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ A	4	春または秋	1	E1964 海外ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ B	4	春または秋

[H 群科目]

２年次以上配当の発展的科目。演習形式を中心とする。

※Ａ・Ｂは独立した科目であるが、同一曜時限の同一担当者のｸﾗｽを履修することとし、同一曜時限に複数ｸﾗｽが開講されている場合にも、いずれか１ｸﾗｽを定めて履修するものとする。

※ﾘｻｰﾁ&ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝはそれぞれﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ実習、短期留学、長期留学を目指す学生のために、実習、留学で特に力を入れたい点について特化して学習するﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑである。留学・実習時期によってはＡを秋学期、Ｂを春学期に開講することもある。履修に関しては担当教員の許可を得ることが必要である。

配当年次	科　目　名	単位数	開講学期		科　目　名	単位数	開講学期
2	H2011 ﾘｻｰﾁ&ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ 1A 注１	2	春		H2012 ﾘｻｰﾁ&ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ 1B 注１	2	秋
2	H2021 ﾘｻｰﾁ&ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ 2A 注２	2	春		H2022 ﾘｻｰﾁ&ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ 2B 注２	2	秋
2	H2031 ﾘｻｰﾁ&ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ 3A 注３	2	春		H2032 ﾘｻｰﾁ&ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ 3B 注３	2	秋
2	H2041 ﾘｻｰﾁ&ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ 4A 注４	2	春		H2042 ﾘｻｰﾁ&ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ 4B 注４	2	秋
2	H2051 ﾘｻｰﾁ&ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ 5A 注５	2	春		H2052 ﾘｻｰﾁ&ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ 5B 注５	2	秋
3	H3011 ｱｼﾞｱ・日本研究 A 注６	2	春		H3012 ｱｼﾞｱ・日本研究 B 注６	2	秋
3	H3021 ﾖｰﾛｯﾊﾟ文化圏研究 A 注６	2	春		H3022 ﾖｰﾛｯﾊﾟ文化圏研究 B 注６	2	秋
3	H3031 現代科学研究 A　注６	2	春		H3032 現代科学研究 B　注６	2	秋

注 1：国内ボランティア実習事前事後研修

注 2：海外ボランティア実習事前事後研修

注 3：アジア言語圏留学事前事後研修

注 4：ヨーロッパ言語圏留学事前事後研修

注 5：英語圏留学事前事後研修

注 6：履修に際しては、『明治学院大学　ヘボン塾ガイドブック』を参照のこと。

[I 群科目]

２年次以上配当の英語で行われる科目。本学の交換留学生と一緒に学ぶ科目である。

配当年次	科　目　名	単位数
2	I2101～I2106　Japanese Arts and Culture1～6	2
2	I2111～I2116　Japanese History1～6	2
2	I2121～I2126　Japanese Society1～6	2
2	I2131～I2134　Multilingualism and Multiculturalism1～4	2
2	I2141～I2144　Current Issues1～4	2

※履修定員が設定される。

※履修に際しては一定の英語力が必要とされる。

※ｼﾗﾊﾞｽを熟読の上、必ず最初の授業に出席して担当教員から履修の許可を得ること。

心理学科

心　理　学　科

（履修の方法）

教育の方針－心理学科は、次の諸点を教育の基本方針としている。
⑴「こころを探り、人を支える」ことができる人材を育てる。心理学部基幹科目である「心理支援論」を通じて心理学の様々な分野と社会への貢献との関わりを学び、更に多くの基礎科目や専門科目の学習により「こころを探り、人を支える」ことを追及する。
⑵心理学的なものの見方・考え方・感覚・方法論を身に付けるために、基礎的な力を確実に習得した上で、専門科目を学んでほしいと考えている。そのために、基礎科目は必修、または選択必修としている。講義だけではなく、演習や実習科目もある。これらの科目の履修を通じて、人間や社会を理解し、社会に貢献できる力を養うことを目指している。

〔１〕心理学科カリキュラムの概要

１．心理学科のカリキュラムは、明治学院共通科目と学科科目から構成されている。明治学院共通科目については、『明治学院共通科目履修の方法』を参照すること。

２．心理学科学科科目の概要

学科科目は、

- 基幹科目「心理支援論」
- 基礎科目
- 専門科目
  - ①　講義科目
  - ②　専門実習科目
  - ③　演習科目
- 卒業論文

で構成される。
基幹科目はすべて必修である。
基礎科目は必修、選択必修または選択科目である。
専門講義科目は、教員の指導に基づき、基幹科目や基礎科目の履修を通じて各自が関心をもち、より専門性を深めたいと考える科目を履修することができる。
専門実習科目、演習科目、卒業論文は必修ではない。また、専門実習科目、演習科目、卒業論文を履修するためには、履修条件があるので注意してほしい。

〔２〕卒業までに必要な単位数

<table>
<tr><th colspan="5">部　　門</th><th colspan="2">卒業までに必要な単位数</th><th></th></tr>
<tr><td rowspan="5">明治学院
共通科目
（注１）</td><td colspan="4">キリスト教基本科目</td><td>Ⅰ</td><td>4単位</td><td rowspan="5">計24単位</td></tr>
<tr><td rowspan="2">外国語基本科目</td><td colspan="3">英語</td><td rowspan="2">Ⅱ</td><td>4単位</td></tr>
<tr><td colspan="3">初習語</td><td>4単位</td></tr>
<tr><td colspan="4">情報処理科目</td><td>Ⅲ</td><td>2単位</td></tr>
<tr><td colspan="4">自由選択（D・E・H・I群科目を含む）</td><td>Ⅳ</td><td>10単位</td></tr>
<tr><td rowspan="10">学科科目</td><td>基幹科目</td><td colspan="3">必修科目※</td><td>Ⅴ</td><td>10単位</td><td rowspan="10">計70単位
（Ⅷの単位
は除く）</td></tr>
<tr><td rowspan="4">基礎科目</td><td rowspan="2">講義科目</td><td>必修科目※</td><td rowspan="4">Ⅵ</td><td>12単位（注２）</td></tr>
<tr><td>選択必修科目♭</td><td>6単位　（注２）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">実験・実習科目</td><td>必修科目※</td><td>4単位　（注２）</td></tr>
<tr><td>選択必修科目＄</td><td>1単位　（注２）</td></tr>
<tr><td colspan="2">教職関連科目＃</td><td>Ⅷ</td><td>フリーゾーンに算入（注３）</td></tr>
<tr><td rowspan="4">専門科目</td><td colspan="2">①　講義科目</td><td rowspan="3">Ⅶ</td><td rowspan="3">37単位（注４）</td></tr>
<tr><td colspan="2">②　専門実習科目</td></tr>
<tr><td colspan="2">③　演習科目</td></tr>
<tr><td colspan="2">卒業論文</td><td>Ⅷ</td><td>フリーゾーンに算入（注５）</td></tr>
<tr><td colspan="5">フリーゾーン
（明治学院共通科目・学科科目から選択）</td><td>Ⅷ</td><td>30単位（注３）（注５）
（注６）</td><td>計30単位</td></tr>
<tr><td colspan="7">合　　計</td><td>124単位</td></tr>
</table>

（注１）明治学院共通科目の履修方法を参照すること。なお、Ⅱで9単位以上取得した場合、Ⅲで3単位以上取得した場合は、Ⅳの単位として扱われる。Ⅳの11単位以上の単位はⅧの単位として扱われる。外国人留学生は、日本語4単位が必修であり、さらに日本語以外の言語（同一言語）から4単位を必修とする。

（注２）Ⅵの基礎科目は指定された必修科目（※）16単位、選択必修科目（♭）から6単位以上、選択必修科目（＄）から1単位以上を取得すること。選択必修科目（♭）7単位以上、選択必修科目（＄）2単位以上の単位はⅧの単位として扱われる。

（注３）＃が付された教職関連科目は、Ⅷの単位として扱われる。

（注４）Ⅶの専門科目は①講義科目②専門実習科目③演習科目から37単位取得すること。38単位以上の単位はⅧの単位として扱われる。

（注５）卒業論文の単位はⅧの単位として扱われる。

（注６）Ⅷの30単位は、明治学院共通科目および心理学科学科科目から取得すること。

（注６）特に指示がある科目を除き、同一科目が複数開講されている場合でも、履修できるのは１つだけである。

〔３〕年間履修制限単位数

・1年間に履修できる単位数は48単位である（「教職に関する科目」と「教科に関する科目（卒業要件外）」は、16単位まで48単位を超えて履修できる）。ただし、4年次生および過年次生で卒業に49単位以上の単位取得が必要とされる場合、学科主任による履修指導を経たうえで、履修単位数の超過を認めることがある。
・同一授業科目を重複履修することはできない。
・編入生および転学科生の履修については、年間履修制限単位を設けない。履修方法は個々の事情によって異なるはずなので、年度始めに教務課の指導を受けること。特に、転学科生の場合、転学科をしたことによる履修の特別な処置を約束するものではないことを承知しておくこと。

〔４〕履修中止除外科目について

学修の手引き「７．履修中止制度」で履修中止ができない科目としている必修科目、予備登録科目等に加えて、心理学科科目における「(g)各学科において定めている履修中止の申請ができない科目」は、以下のとおりである。

・選択必修である科目（コンピュータリテラシーを含む）　　・演習１、演習２

〔５〕再試験

卒業年次生のうち、卒業に必要な単位数を、学科科目のうち講義科目１科目の範囲内で満たすことができなかった学生につき、当該年度のＤ評価の科目を対象として再試験の機会を設ける。該当者の発表は３月の卒業者の発表と同時に行い、試験は３月に実施する。ただし、９月卒業申請者に対する再試験は実施しない。

〔６〕学科科目

※を付した科目は必修科目である。必修科目は、必ず配当年次に履修すること。

♭および＄を付した科目は選択必修科目である。♭の付いた科目については，５科目のうち３科目以上を履修すること。＄の付いた科目については，３科目のうち１科目以上を履修すること。

＃を付した科目は教職関連科目である。教育職員免許状取得のための単位として履修できる科目であり、卒業要件単位（フリーゾーン）としても履修できる。

（Ⅴ）基幹科目

以下の科目は卒業までに必要な単位数の表中Ⅴ（必修科目）の単位として扱われる。

配当年次	科　目　名		単位数	開講	備考
1	※	心理支援論 1A	2	学期	
1	※	心理支援論 1B	2	学期	
2	※	心理支援論 2A	2	学期	
2	※	心理支援論 2B	2	学期	
3	※	心理学とキャリア	2	学期	

（Ⅵ）基礎科目

以下の講義科目および実験・実習科目は卒業までに必要な単位数の表中Ⅵの単位として扱われる。このうち※は必修科目、♭および＄は選択必修の単位として扱われる。

※はすべて必修。

♭については，５科目中，３科目以上を履修すること。７単位以上はⅧの単位として扱われる。

＄については，３科目中，１科目以上を履修すること。２単位以上はⅧの単位として扱われる。

・講義科目

配当年次	科　目　名		単位数	開講	備考
1	※	心の健康	2	学期	
1	※	心理学概論 A	2	学期	
1	※	心理学概論 B	2	学期	
1	※	心理学研究法	2	学期	
1	※	心理統計法	2	学期	
2	※	調査法	2	学期	
2	♭	生理心理学概論	2	学期	
2	♭	認知心理学概論	2	学期	
2	♭	社会心理学概論	2	学期	
2	♭	発達心理学概論	2	学期	
2	♭	臨床心理学概論	2	学期	

・実験・実習科目

配当年次	科　目　名		単位数	開講	備考
2	※	基礎統計学	2	学期	注 1
2	※	心理学基礎実験	2	学期	注 1
3	$	観察・面接法実習	1	学期	注 2
3	$	調査法実習	1	学期	注 2
3	$	検査法実習	1	学期	注 2

（注１）　２時限連続で開講される。

（注２）　定員を超えた場合は選考を行う。

・教職関連科目（フリーゾーン）

以下の科目は卒業までに必要な単位数の表中Ⅷ（フリーゾーン；明治学院大学共通科目および学科科目部門）の単位として扱われる。

配当年次	科　目　名		単位数	開講	備考
1	＃	社会学概論 A	2	学期	
1	＃	社会学概論 B	2	学期	
3	＃	社会福祉学概論 A	2	学期	
3	＃	社会福祉学概論 B	2	学期	
3	＃	家族社会学	2	学期	
3	＃	教育心理学	2	学期	

（Ⅶ）専門科目

専門科目は、以下の科目で構成される。①講義科目、②専門実習科目、③演習科目の中から、37単位以上を取得すること。38単位以上の単位は、Ⅷの単位として扱われる。

① 講義科目

② 専門実習科目

③ 演習科目

①講義科目

配当年次	科　目　名		単位数	開講	備考
3		学習心理学	2	学期	
3		思考心理学	2	学期	
3		知覚心理学	2	学期	
3		生理心理学	2	学期	
2		生涯発達心理学（乳幼児）	2	学期	
3		生涯発達心理学（児童）	2	学期	
3		生涯発達心理学（乳幼児・児童）	2	学期	注３
3		生涯発達心理学(青年)	2	学期	
3		生涯発達心理学(成人・老年)	2	学期	
3		学校心理学	2	学期	
3		発達臨床心理学	2	学期	
2		発達と障害の臨床心理学	2	学期	
3		パーソナリティ心理学	2	学期	
3		心身医学	2	学期	

配当年次	科　目　名		単位数	開講	備考
3		心理アセスメント	2	学期	
3		精神分析学	2	学期	
3		グループアプローチ	2	学期	
3		健康心理学	2	学期	
3		犯罪心理学	2	学期	
3		認知行動療法	2	学期	
3		精神医学	2	学期	
3		心理臨床動作学	2	学期	
2		異文化間心理学	2	学期	
3		対人社会心理学	2	学期	
3		産業・組織心理学	2	学期	
3		コミュニティ心理学	2	学期	
3		家族心理学	2	学期	
3		キャリア心理学	2	学期	
3		社会病理学	2	学期	
3		質的研究法	2	学期	注１
3		応用統計学	2	学期	注１
2	♪	心理学英語講読 A	2	学期	注２
2	♪	心理学英語講読 B	2	学期	注２

（注１）定員を超えた場合は選考を行う場合もある。

（注２）♪を付した科目は推奨科目である。推奨科目は卒業に必須ではないが２年次に１科目の履修を推奨するものである。

（注 3）「生涯発達心理学（乳幼児）」あるいは「生涯発達心理学（児童）」の単位を取得済のものは履修できない。

②専門実習科目

配当年次			単位数	開講	備考
2		生理心理学実習	1	学期	注１
3		臨床心理実習A	1	学期	注１･注２
3		臨床心理実習B	1	学期	注１･注２
3		社会・認知心理学実習	1	学期	注１

（注１）定員を超えた場合は選考を行う。

（注２）「臨床心理実習」は在学中に A・B いずれか１科目のみ単位取得可能である。

③演習科目

配当年次	科　目　名	単位数	開講	備考
3	演習 1	2	通年	注１
4	演習 2	2	通年	注２

（注１）①２年次までの必修科目の単位を取得済みであることを履修条件とするゼミが多いが、詳細な履修条件の説明は、２年次に実施するゼミ説明会の時に行う。

②２年春学期までの成績による選考を行う場合もある。

（注２）　原則として「演習2」は同じ担当者の「演習1」を取得済みであること。

（Ⅷ）専門科目（フリーゾーン）

卒業論文

配当年次	科　目　名	単位数	開講	備考
4	卒業論文	6	通年	

履修予定者は、履修登録期間内に必ず各自履修登録すること。

「卒業論文」を履修するためには、同じ担当者の「演習２」を同一年度に履修すること。また、事前に担当者の許可を得なければならない。論文は、１２，０００字以上であることを原則とする。

〔７〕教職課程の教科に関する科目（卒業要件外）

下記科目は、教育職員免許状のための単位として履修できる科目であり、卒業要件単位にならない。

下記「教科に関する科目」と「教職課程履修要項（諸資格）」に記載の「教職に関する科目」を年間履修制限単位に加えて16単位まで履修できる。

配当年次	科　目　名	単位数	開講	備考
2	日本史１・２	２・２	学期	
2	世界史１・２	２・２	学期	
2	地誌概説１・２	２・２	学期	
2	地理学概論１・２	２・２	学期	
2	憲法Ａ・Ｂ	２・２	学期	注１
2	民法Ａ・Ｂ	２・２	学期	注２
2	現代政治理論 1A・1B	２・２	学期	
2	国際政治学Ａ・Ｂ	２・２	学期	
3	哲学（専）１・２	２・２	学期	注３
3	宗教学概論１・２	２・２	学期	
3	イギリス研究Ａ・Ｂ	２・２	学期	
3	労働法Ａ・Ｂ	２・２	学期	注１

（注１）　履修に際しては、再履修の場合を除き同一年度にＡ・Ｂ両方を履修すること。
なお、ＢはＡで修得した知識が求められるため、Ｂは、Ａと同一年度に履修するか、Ａがすでに履修済み（取得または未取得を問わない）であることを条件とする。

（注２）　Ｂの履修にあたっては、Ａが履修済みであることが望ましい。講義はＡの知識を前提として行われる。

（注３）　「哲学（専）１・２」を履修するためには、明治学院共通科目［Ｄ群科目］の「哲学１～８」「倫理学１～７」「論理学１～８」のうち、同一名称の科目２科目（計４単位）を取得済みでなければならない。

〔８〕小学校教育職員免許取得について

２００６年度以降の学生で学科の推薦を受けた者は、玉川大学と本学との協定に基づき、小学校教員免許を取得するために３年次から玉川大学通信教育部の科目等履修生になることができる。それを希望する学生は2年次に行われる説明会に出席し、面接を受け、学科による推薦を得なければならない。心理学科の選考基準は以下のとおりである。

小学校教員になりたいという強い意志を持っている学生で、以下の条件を満たし、面接による口頭試問に合格した者。

１）2年次までの以下の学科必修科目を履修・習得できる者。

心理支援論 1A、心理支援論 1B、心理支援論 2A、心理支援論 2B、心理学概論 A、心理学概論 B、心理学研究法、基礎統計学、心理学基礎実験、調査法、心理統計法、心の健康のすべての科目。

生理心理学概論、認知心理学概論、社会心理学概論、発達心理学概論、臨床心理学概論から 3 科目以上。

２）中学校社会科教員免許或いは高等学校公民科教員免許を取得する為に必要な以下の科目を2年次までに履修・習得している者。

教育の思想と歴史、教育制度論、教職研究、社会科・地理歴史科教育研究１，社会科・公民科教育研究１、生徒理解と指導法、道徳教育研究

但し、社会科・地理歴史科教育研究１と道徳教育研究は高等学校公民科のみ取得する学生は不要。

〔９〕卒業論文未提出者・不合格者の９月卒業について

・在学５年目以上の学生が、下記条件を満たしている場合、９月卒業の申請科目に「卒業論文」を含めることができる。

① 前年度までに「演習２」の単位を取得済であること。
② 前年度までに得た「卒業論文」の評価が「D」（提出したが不合格）または「N」（未提出）であること。
③ 前年度までに「卒業論文」の指導を１年以上受けていること。
④ 卒業希望年度に「卒業論文」と春学期科目の履修で卒業見込みが立つこと。
⑤ 卒論指導担当者（それが不可能の場合は学科主任）に９月卒業を前提とした卒業論文履修者として、履修の許可を得ていること。

・申請者は、卒業論文を７月第一火または水曜日に教務課へ提出し、審査のうえ合格した場合、春学期末に単位を取得できる。

・上記期日に未提出または審査結果が不合格の場合、３月卒業予定の学生と同じ１月の期日に改めて提出することで、３月卒業の可能性がある。

・卒業論文を上記期日に提出し審査に合格した場合でも、他の卒業要件単位が春学期末に未取得ならば、卒業論文は年度末に単位を取得することになる。

・希望者は、教務課指定の履修許可書に卒論指導担当者の署名と捺印を受け、他の申請書類と併せて教務課に提出すること。

心理学科科目部門別一覧

科　目　名	単位数	配当年次	開講	科　目　名	単位数	配当年次	開講
（Ⅴ）基幹科目							
※　心理支援論１A・１B	2･2	1	学期	※　心理学とキャリア	2	3	学期
※　心理支援論２A・２B	2･2	2	学期				
（Ⅵ）基礎科目							
講義科目							
※　心の健康	2	1	学期	＃　社会学概論A	2	1	学期
※　心理学概論A	2	1	学期	＃　社会学概論B	2	3	学期
※　心理学概論B	2	1	学期	＃　社会福祉学概論A	2	3	学期
※　心理学研究法	2	1	学期	＃　社会福祉学概論B	2	3	学期
※　心理統計法	2	1	学期	＃　教育心理学	2	3	学期
※　調査法	2	2	学期	＃　家族社会学	2	3	学期
♭　生理心理学概論	2	2	学期	♭　発達心理学概論	2	2	学期
♭　認知心理学概論	2	2	学期	♭　臨床心理学概論	2	2	学期
♭　社会心理学概論	2	2	学期				
実験・実習科目							
※　基礎統計学	2	2	学期	※　心理学基礎実験	2	2	学期
＄　観察・面接法実習	1	3	学期	＄　検査法実習	1	3	学期
＄　調査法実習	1	3	学期				
（Ⅶ）専門科目							
①講義科目							
知覚心理学・学習心理学領域							
学習心理学	2	3	学期	知覚心理学	2	3	学期
思考心理学	2	3	学期				
生理心理学・比較心理学領域							
生理心理学	2	3	学期				
教育心理学・発達心理学領域							
生涯発達心理学（乳幼児）	2	2	学期	生涯発達心理学（成人・老年）	2	3	学期
生涯発達心理学（児童）	2	3	学期	学校心理学	2	3	学期
生涯発達心理学（乳幼児・児童）	2	3	学期	発達臨床心理学	2	3	学期
生涯発達心理学（青年）	2	3	学期				
臨床心理学・人格心理学領域							
発達と臨床の心理学	2	2	学期	健康心理学	2	3	学期
パーソナリティ心理学	2	3	学期	犯罪心理学	2	3	学期
心身医学	2	3	学期	認知行動療法	2	3	学期
心理アセスメント	2	3	学期	精神医学	2	3	学期
精神分析学	2	3	学期	心理臨床動作学	2	3	学期
グループアプローチ	2	3	学期				
社会心理学・産業心理学領域							
異文化間心理学	2	2	学期	家族心理学	2	3	学期
対人社会心理学	2	3	学期	キャリア心理学	2	3	学期
産業・組織心理学	2	3	学期	社会病理学	2	3	学期
コミュニティ心理学	2	3	学期				
研究法・英語講読							
質的研究法	2	3	学期	♪　心理学英語講読 A	2	2	学期
応用統計学	2	3	学期	♪　心理学英語講読 B	2	3	学期
②専門実習科目							
生理心理学実習	1	2	学期	臨床心理実習B	1	3	学期
臨床心理実習A	1	3	学期	社会・認知心理学実習	1	3	学期
③演習科目							
演習1	2	3	通年	演習2	2	4	通年
（Ⅷ）専門科目（フリーゾーン）							
卒業論文							
卒業論文	6	4	通年				

公認心理師

公認心理師の資格と職務

公認心理師法は、2015年9月9日に議員立法により成立し、2017年9月15日に施行された。

公認心理師は、心理学に特化した初めての国家資格である。近年の国民が抱える心の健康の問題は、生活に関わる重要な問題であり、学校、医療機関、その他企業をはじめとする様々な職場において、心理職の活用の促進が求められる。これらの心の問題等をめぐる状況に鑑み、心理に関する支援を必要とする人々の心理に関する相談、援助等の業務に従事する者の資質の向上及びその業務の適正を図り、国民が安心して心理に関する支援を受けられるようにするため、国家資格によって裏付けられた一定の資質を備えた心理職として、公認心理師資格が定められた。

公認心理師は、公認心理師法第2条によれば、「公認心理師登録簿への登録を受け、公認心理師の名称を用いて、保健医療、福祉、教育その他の分野において、心理学に関する専門的知識及び技術をもって、次に掲げる行為を行うことを業とする者」である。

(1) 心理に関する支援を要する者の心理状態の観察、その結果の分析
(2) 心理に関する支援を要する者に対する、その心理に関する相談及び助言、指導その他の援助
(3) 心理に関する支援を要する者の関係者に対する相談及び助言、指導その他の援助
(4) 心の健康に関する知識の普及を図るための教育及び情報の提供

公認心理師法の施行前に大学に入学した者が公認心理師国家試験の受験資格を得るには、経過措置（附則第2条第1項第3号及び第4号）により、大学において省令で定める科目の単位を修得して卒業した後、大学院において省令で定める科目の単位を修得したうえで大学院を修了する（Eルート、47ページ参照）、または、認定された医療機関等での実務経験を2年以上(標準は3年)積む（Fルート、47ページ参照）必要がある。

2013 年度生の「公認心理師」国家試験受験資格取得に必要な科目

「公認心理師法」に基づき、本学では2013年度生が「公認心理師」国家試験受験資格取得に必要な科目を、46ページのように設定している。「公認心理師の科目」に対応した「明治学院大学での科目」について、区分I～Vのそれぞれについて定めた科目の単位を在学中に全て修得し卒業した後、①大学院において省令で定める科目の単位を修得したうえで大学院を修了する(Eルート)、または、②認定された医療機関等での実務経験を2年以上(標準は3年)積む（Fルート）ことによって、国家試験の受験資格が得られる。したがって、この試験を受験しようとする者は、46ページの諸点をよく注意して科目を履修する必要がある。

◎科目読み替え表

法令に定められている「公認心理師」の科目と明治学院大学での科目との対応は次の表のとおりである。①と㉓を除いた23科目をその類似性からⅠ～Ⅴの5つに分類し、それぞれについて定めた科目（合計12科目以上相当）の単位を在学中に全て修得する必要がある。

区分	公認心理師の科目		明治学院大学での科目※1
		①公認心理師の職責	※修める必要のある科目としない
Ⅰ	３科目以上	②心理学概論	心理学概論 A、心理学概論 B
		③臨床心理学概論	―
		④心理学研究法	心理学研究法、調査法
		⑤心理学統計法	心理統計法
		⑥心理学実験	心理学基礎実験
Ⅱ	４科目以上	⑦知覚・認知心理学	認知心理学概論、知覚心理学
		⑧学習・言語心理学	学習心理学、思考心理学
		⑨感情・人格心理学	パーソナリティ心理学
		⑩神経・生理心理学	生理心理学概論、生理心理学、心理支援論 1B
		⑪社会・集団・家族心理学	社会心理学概論、対人社会心理学、家族心理学、コミュニティ心理学、異文化間心理学
		⑫発達心理学	発達心理学概論 生涯発達心理学（乳幼児） 生涯発達心理学（児童） 生涯発達心理学（乳幼児・児童） 生涯発達心理学（青年） 生涯発達心理学（成人・老年）
		⑬障害者（児）心理学	発達と障害の臨床心理学、心理支援論 2A
Ⅲ	２科目以上	⑭心理的アセスメント	心理アセスメント、心理支援論 2B
		⑮心理学的支援法	臨床心理学概論、精神分析学、認知行動療法、心理臨床動作学、グループアプローチ、心理支援論(総合)A
		㉔心理演習	臨床心理実習 A、臨床心理実習 B、心理支援論(総合)、心理支援論(総合)B
		㉕心理実習（時間は問わない）	―
Ⅳ	２科目以上※3	⑯健康・医療心理学	健康心理学、心理支援論 1A
		⑰福祉心理学	社会福祉学概論 A、社会福祉学概論 B
		⑱教育・学校心理学	教育心理学、学校心理学、発達臨床心理学
		⑲司法・犯罪心理学	犯罪心理学、社会病理学
		⑳産業・組織心理学	産業・組織心理学、キャリア心理学、心理学とキャリア、心理支援論 3
Ⅴ	１科目以上※2	㉑人体の構造と機能及び疾病	心身医学
		㉒精神疾患とその治療	精神医学
		㉓関係行政論	※修める必要のある科目としない

※1 「明治学院大学での科目」において複数の科目の記載があるものについては、いずれか１つの科目の単位が修得できていれば、「公認心理師の科目」における当該の科目を修めたと認められる。なお、「明治学院大学での科目」において複数の科目名の記載があるものについては、入学年次によって開講されていない科目が含まれている場合がある。2013年度以前の入学生の読み替え表は、心理学部オリジナルサイト（http://psy.meijigakuin.ac.jp/ps/psychologist/）より入手できる。

※2 ⑯はⅤ群に読み替え可能。ただし、⑯はⅣ群かⅤ群のどちらかの群でしか読み替えられない。

※3 ⑯をⅤ群に読み替える場合は⑰～⑳から2科目以上が必要となる。

全学年共通

１．転学科生が公認心理師試験の受験資格を得ようとする場合、本学では、原則として卒業までに３年以上を要するので注意すること。

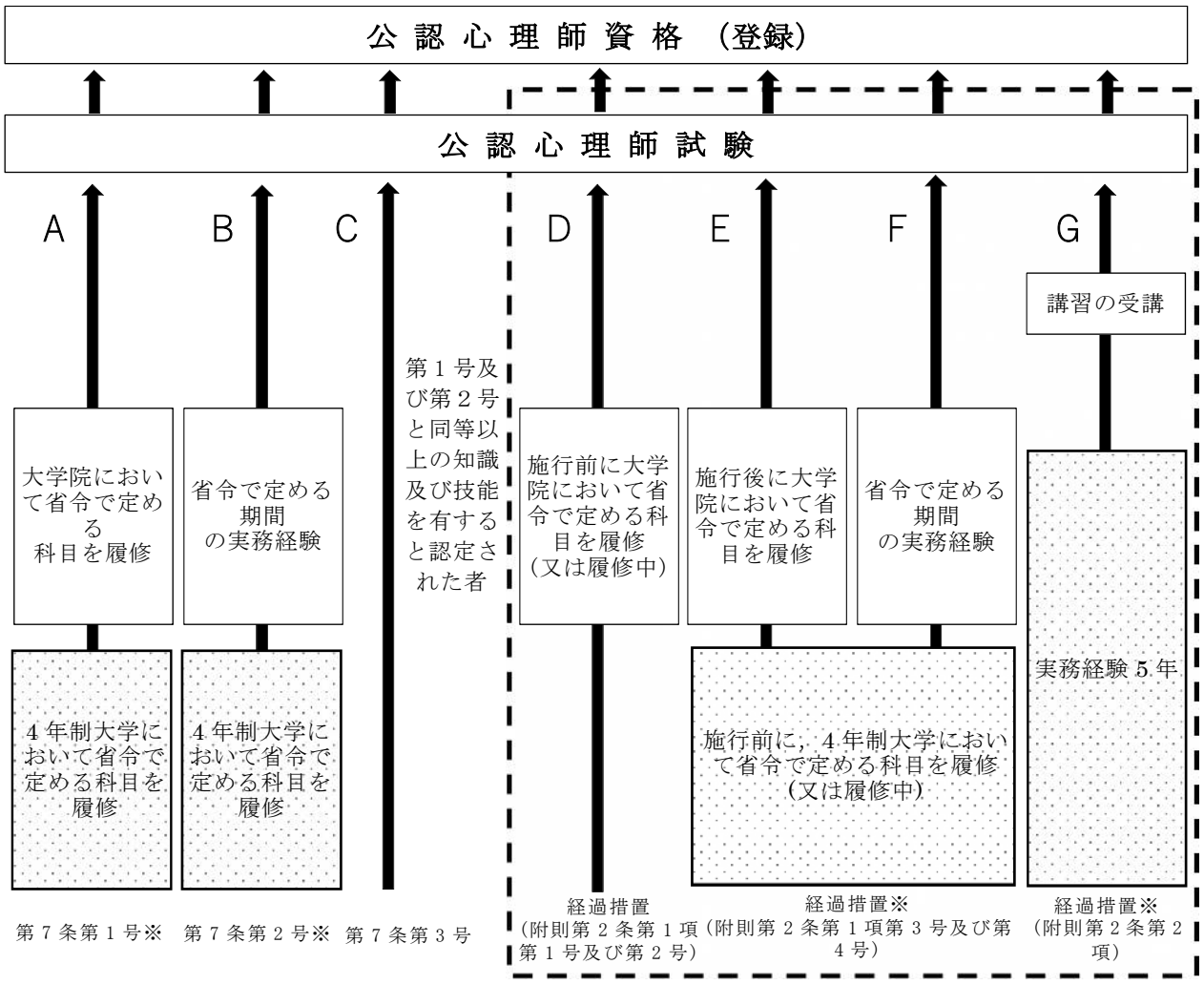
２．公認心理師の資格取得方法は以下の図のとおりである。

公認心理師資格・受験に関する情報は下記を参照のこと。

厚生労働省　公認心理師関連ページ

http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000116049.html

公認心理師の資格取得方法について



＊該当条文に戻づく受験資格取得者に「準ずるもの」を省令で定めることとされている

（「公認心理師カリキュラム等検討会 報告書」より）

諸 資 格

1．社会福祉主事任用資格

社会福祉主事任用資格が取得できる学科

社会福祉主事任用資格は、すべての学科の学生が取得することができます。

社会福祉主事の職務

国、地方公共団体、社会福祉法人など社会福祉事業を経営する者は、福祉サービスを必要としている人たちが心身ともに健やかに育成され、または社会、経済、文化その他の活動に参加する機会が与えられ、その年令、環境、心身の状況に応じて、地域において必要な福祉サービスを提供できるようにしなければなりません。このことに基づき、地方公共団体は、福祉に関する事務所を設置しており、ここには社会福祉主事をおくよう社会福祉法において義務づけられています。

社会福祉主事は、その事務所において生活保護法、児童福祉法、母子及び寡婦福祉法、老人福祉法、身体障害者福祉法、及び知的障害者福祉法の定める援護、育成または更生の措置に関する事務を行うことを職務としています。

社会福祉主事任用資格を得るには

20歳以上の者で、人格高潔で思慮が円熟し、社会福祉の増進に熱意があり、かつ下記1～3のいずれかに該当する者が任用資格を得られます。**任用資格とは、公務員試験に合格して公務員となった者にあてはまるものであり、この要件が満たされなければ社会福祉主事にはなれません。**

1．大学において厚生労働大臣の指定する社会福祉に関する科目を修め卒業した者
2．厚生労働大臣の指定する養成機関又は講習会の課程を修了した者
3．厚生労働大臣の指定する社会福祉事業従事者試験に合格した者

本学学生は、次ページに挙げる**『社会福祉法に定める科目』を3科目以上修得**することで、社会福祉主事任用資格を得ることができます。『社会福祉法に定める科目』に対し、『本学で開講している科目』を表記していますので、これらの科目を修得してください。

『本学で開講している科目』について、その科目を履修することができる学科を「○」で示しています、各科目の履修に際しては条件が付される場合もあります。詳しくは所属学部の履修要項でご確認ください。なお表では学科名称に略称を用いています。(LE：英文学科、LF:フランス文学科、LA:芸術学科、EE:経済学科、EB：経営学科、EG：国際経営学科、SG：社会学科、SW:社会福祉学科、JU：法律学科、JC：消費情報環境法学科、JP:政治学科、KS：国際学科、KC：国際キャリア学科、PS：心理学科、PE：教育発達学科)

本資格の取得要件を満たしている方には、証明書を発行いたします。お求めになる場合は教務部までお問い合わせください。

社会福祉主事の資格に関する科目

社会福祉法に定める科目名	本学で開講している科目名	履修できる学科　(2010～2013 年度入学生)														
		LE	LF	LA	EE	EB	EG	SG	SW	JU	JC	JP	KS	KC	PS	PE
社会福祉概論	社会福祉学概論 A・B								○						○	
	D1231 社会福祉学 1 D1232 社会福祉学 2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
社会福祉援助技術論	ｿｰｼｬﾙﾜｰｸ 1A								○							
社会福祉調査論	社会福祉調査								○							
社会福祉行政論	社会福祉法制							○	○							
社会保障論	社会保障論 A・B				○	○	○	○	○							
公的扶助論	公的扶助論 A							○	○							
児童福祉論	児童福祉論 A・B							○	○							
家庭福祉論	家庭福祉論							○	○							
保育理論	保育内容の指導法															○
身体障害者福祉論	身体障害者福祉論							○	○							
知的障害者福祉論	知的障害者福祉論							○	○							
老人福祉論	高齢者福祉論 A・B							○	○							
地域福祉論	地域福祉論 A							○	○							
法学	D1201 法学(日本国憲法を含む)1 D1202 法学(日本国憲法を含む)2	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○	○	
	1608 法学原論												※A			
	2309 法学原論												※B			
民法	2305 民法												※A			
	民法 A・B				○	○	○	○	○			○			○	
	民法総則 1・2									○	○	○				
行政法	行政法 A・B				○	○	○	○	○							
	行政法 1A・1B									○	○	○				
	行政法 2A・2B									○	○	○				
経済学	経済学概論 1・2					○	○	○	○	○	○	○				
	財政学 1・2				○	○	○			○	○	○				
	ﾐｸﾛ経済政策				○	○	○					○				
	ﾏｸﾛ経済政策				○	○	○					○				
社会政策	社会政策論 1・2				○	○	○	○	○	○	○	○				
	労働経済論 1・2				○	○	○									
心理学	心理学概論 A・B														○	
	心理学概論								○							
	子どもの学習支援の心理学 教育相談の理論と方法 生涯発達心理学(成人･老年)															○
	心理学総論 A															※C
社会学	社会学概論 A・B	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	
	社会学概論								○							
教育学	教育の思想と歴史	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	
	教育原論															○
医学一般	医学知識								○							
介護概論	介護概論								○							

(注1)『本学で開講している科目』がない『社会福祉法に定める科目』は上記の表に掲載していません。
(注2)『本学で開講している科目』において、科目名の後にA・B、1・2が付されている科目は、2科目セットで修得しなければ『社会福祉法に定める科目』1科目と数えることができません。
(注3)「子どもの学習支援の心理学」・「教育相談の理論と方法」・「生涯発達心理学(成人･老年)」は3科目修得しなければ『社会福祉法に定める科目』1科目として数えることができません。
(注4)『社会福祉法に定める科目』の同じ区分で、本学で開講している科目を複数科目修得しても、1科目と数えます。

例）社会福祉学科生が「社会福祉学概論 A・B」と「社会福祉学 1・2」の合計 4 科目を修得した場合は、『社会福祉法に定める科目』の『社会福祉概論』1 科目の修得と数えます。

(注 5)表中の注釈は以下の意味です。

※A：2010 年度入学生のみ履修可能です。
※B：2011 年度以降入学生のみ履修可能です。
※C：2012 年度以降入学生のみ履修可能です。

2. 児童福祉司任用資格

児童福祉司の職務

児童福祉法に基づき、児童相談所には児童福祉司をおくことが義務づけられています。

児童福祉司は、児童相談所長の命を受けて、児童の保護、その他児童の福祉に関する事項について、相談に応じ、専門的技術に基づいて必要な指導を行う等、児童の福祉の増進に努めることを職務としています。

児童福祉司に任用される要件

1. 学校教育法に基づく大学において心理学、教育学もしくは社会学を専修する学科又はこれに相当する課程を修め卒業した者であって、厚生労働省令で定める施設において１年以上児童その他の福祉に関する相談に応じ、助言、指導その他の援助を行う業務に従事した者
2. 社会福祉主事として２年以上、児童福祉事業に従事した者
3. 厚生労働大臣の指定する児童福祉司又は児童福祉施設の職員を養成する学校その他の施設を卒業し又は厚生労働大臣の指定する講習会の課程を修了した者
4. その他（略）

上記のいずれかに該当する者はこの任用資格が得られます。**任用資格とは、公務員試験に合格して公務員となった者にあてはまるものであり、この要件が満たされなければ児童福祉司にはなれません。**

本学社会学科生・社会福祉学科生・心理学科生・教育発達学科生は、卒業することで、上記1に定める「心理学、教育学もしくは社会学を専修する学科又はこれに相当する課程を修め卒業した者」であることになります。その証明は卒業証明書で行うことができます。

児童福祉司任用資格の取得には、これに加えて「厚生労働省令で定める施設において1年以上児童その他の福祉に関する相談に応じ、助言、指導その他の援助を行う業務に従事」する必要があります。

心理学部専任教員一覧

心理学科

氏　　名	主な担当領域
伊藤　拓	学校心理学
金沢　吉展	健康心理学／臨床心理学
川端　一光	教育心理学／心理統計学
金城　光	認知心理学
清水　良三	心理臨床動作学
杉山　恵理子	グループアプローチ／福祉心理学
平子　雪乃	心理実習／心理演習
田中　知恵	産業・組織心理学／社会心理学
滑川　瑞穂	臨床心理アセスメント
西園マーハ　文	臨床精神医学
野末　武義	家族心理学
野村　信威	生涯発達心理学
花田　安弘	生理心理学
宮本　聡介	社会心理学／社会的認知
森本　浩志	認知行動療法

教育発達学科

氏　　名	主な担当領域
緒方　明子	障害児・者心理学
小野　昌彦	教育臨床心理学
垣花　真一郎	教育心理学
鞍馬　裕美	教育経営学
小林　潤一郎	障害児医学／発達小児科学
佐藤　公	社会科教育学
渋谷　恵	比較・国際教育学
杉山　雅俊	理科教育学
谷川　夏実	保育学・幼児教育学
玉腰　和典	体育科教育学
辻　宏子	数学教育学
手塚　千尋	美術科教育学
中村　敦雄	国語科教育学
根本　淳子	教育方法学
松永　あけみ	発達心理学／保育心理学
水戸　博道	音楽科教育学
宮﨑　眞	特別支援教育学

２０１３年度生用　心理学部心理学科 履修要項　変更･訂正箇所について

新　旧　対　照　表

<table>
<tr><th>ページ</th><th>変更日</th><th>新</th><th>旧</th></tr>
<tr><td>P．24</td><td>2015 年
3 月 20 日</td><td>５．総合教育系科目

<table><tr><th>配当年次</th><th>科　目　名</th><th>単位数</th><th>開講学期</th></tr><tr><td>2</td><td>D2861 ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ 1</td><td>2</td><td>春または秋</td></tr></table></td><td>５．総合教育系科目

（新規開講）</td></tr>
<tr><td>P．28</td><td>2015 年
3 月 20 日</td><td>12．短期留学認定科目
・以下は、本学と協定を結ぶ海外校への短期留学について、本学が単位を認定するための科目である。短期留学を行った者以外が単位を取得することはできない。
・留学先によって別途配当年次が定められている場合があるので、必ず「短期留学ﾊﾝﾄﾞﾌﾞｯｸ」を確認すること。
・これらの科目は、各学科で定める年間履修単位数の上限には含まれません。</td><td>12．短期留学認定科目
・以下は、本学と協定を結ぶ海外校への短期留学について、本学が単位を認定するための科目である。短期留学を行った者以外が単位を取得することはできない。</td></tr>
<tr><td>P．28</td><td>2015 年
3 月 20 日</td><td>13．海外ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ関連科目
・以下は、海外ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟに参加した学生が、単位を取得することができる科目である。
・ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ先によって別途配当年次が決められている場合があるので、必ず出願時に確認すること。
・これらの科目は各学科で定める年間履修単位数の上限には含まれません。
・これらの科目はP･F評価となるため、GPAには含まれません。

<table><tr><th>配当年次</th><th>科　目　名</th><th>単位数</th><th>開講学期</th></tr><tr><td>1</td><td>E1961 海外ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ課題研究 A</td><td>2</td><td>春または秋</td></tr><tr><td>1</td><td>E1962 海外ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ課題研究 B</td><td>2</td><td>春または秋</td></tr><tr><td>1</td><td>E1963 海外ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ A</td><td>4</td><td>春または秋</td></tr><tr><td>1</td><td>E1964 海外ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ B</td><td>4</td><td>春または秋</td></tr></table></td><td>（新規開講）</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>ページ</th><th>変更日</th><th>新</th><th>旧</th></tr>
<tr><td>P. 31</td><td>2016 年
3 月 22 日</td><td>5. 総合教育系科目
<table><tr><th>配当年次</th><th>科 目 名</th><th>単位数</th><th>開講学期</th></tr><tr><td>1</td><td>D1781～1783 現代平和研究 1～3</td><td>2</td><td>春・秋</td></tr></table>・「D1871～1872現代平和研究1～2」は、前年度までに「D1804現代世界と人間4」を単位取得していないこと。</td><td>5.総合教育科目

（新規科目追加）</td></tr>
<tr><td>P. 36</td><td>2014 年
3 月 31 日</td><td>１１．特別学科科目
<table><tr><th>配当年次</th><th>科 目 名</th><th>単位数</th><th>開講学期</th></tr><tr><td>1</td><td>社会学概論 B 注 1･注 2</td><td>2</td><td>学期</td></tr></table></td><td>１１．特別学科科目
<table><tr><th>配当年次</th><th>科 目 名</th><th>単位数</th><th>開講学期</th></tr><tr><td>3</td><td>社会学概論 B 注 1･注 2</td><td>2</td><td>学期</td></tr></table></td></tr>
<tr><td>P. 42</td><td>2017 年
3 月 21 日</td><td>〔２〕卒業までに必要な単位数

（注５）Ⅶの30単位は、明治学院共通科目、心理学科科目、および他学科科目のうちの教育発達学科科目から修得すること。
（注６）特に指示がある科目を除き、同一科目が複数開講されている場合でも、履修できるのは１つだけである。</td><td>〔２〕卒業までに必要な単位数

（注５）Ⅶの30単位は、明治学院共通科目、心理学科科目、および他学科科目のうちの教育発達学科科目から修得すること。
（追加）</td></tr>
<tr><td>P. 44</td><td>2014 年
3 月 31 日</td><td>・教職関連科目（フリーゾーン）
<table><tr><th>配当年次</th><th colspan="2">科 目 名</th><th>単位数</th><th>開講学期</th><th>備考</th></tr><tr><td>1</td><td>#</td><td>社会学概論 B</td><td>2</td><td>学期</td><td></td></tr></table></td><td>・教職関連科目（フリーゾーン）
<table><tr><th>配当年次</th><th colspan="2">科 目 名</th><th>単位数</th><th>開講学期</th><th>備考</th></tr><tr><td>3</td><td>#</td><td>社会学概論 B</td><td>2</td><td>学期</td><td></td></tr></table></td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>ページ</th><th>変更日</th><th>新</th><th>旧</th></tr>
<tr><td>P. 44</td><td>2015 年
3 月 20 日</td><td>①講義科目
<table><tr><th>配当年次</th><th colspan="2">科 目 名</th><th>単位数</th><th>開講学期</th><th>備考</th></tr><tr><td>2</td><td></td><td>発達と障害の臨床心理学</td><td>2</td><td>学期</td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td>異文化間心理学</td><td>2</td><td>学期</td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td>心理臨床動作学</td><td>2</td><td>学期</td><td></td></tr></table></td><td>（新設科目）</td></tr>
<tr><td>P. 44</td><td>2016 年
3 月 22 日</td><td>①講義科目
<table><tr><th>配当年次</th><th colspan="2">科 目 名</th><th>単位数</th><th>開講学期</th><th>備考</th></tr><tr><td>2</td><td></td><td>生涯発達心理学（乳幼児）</td><td>2</td><td>学期</td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td>生涯発達心理学（児童）</td><td>2</td><td>学期</td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td>生涯発達心理学（乳幼児･児童）</td><td>2</td><td>学期</td><td>注３</td></tr></table>（注３）「生涯発達心理学（乳幼児）」あるいは「生涯発達心理学（児童）」の単位を取得済のものは履修できない。</td><td>①講義科目
<table><tr><th>配当年次</th><th colspan="2">科 目 名</th><th>単位数</th><th>開講学期</th><th>備考</th></tr><tr><td>2</td><td></td><td>生涯発達心理学（乳幼児）</td><td>2</td><td>学期</td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td>生涯発達心理学（児童）</td><td>2</td><td>学期</td><td></td></tr></table>（新設科目）</td></tr>
<tr><td>P. 45</td><td>2017 年
3 月 21 日</td><td>〔６〕学科科目
（Ⅶ）専門科目

①講義科目
<table><tr><th>配当年次</th><th>科 目 名</th><th>単位数</th><th>開講</th><th>備考</th></tr><tr><td></td><td>…</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td>社会病理学</td><td>2</td><td>学期</td><td></td></tr><tr><td>3</td><td>質的研究法</td><td>2</td><td>学期</td><td>注１</td></tr><tr><td>3</td><td>応用統計学</td><td>2</td><td>学期</td><td>注１</td></tr></table></td><td>〔６〕学科科目
（Ⅶ）専門科目

①講義科目
<table><tr><th>配当年次</th><th>科 目 名</th><th>単位数</th><th>開講</th><th>備考</th></tr><tr><td></td><td>…</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td>社会病理学</td><td>2</td><td>学期</td><td></td></tr><tr><td>3</td><td>質的研究法</td><td>2</td><td>学期</td><td>注１</td></tr><tr><td>3</td><td>応用統計学</td><td>2</td><td>学期</td><td></td></tr></table></td></tr>
<tr><td>P. 45</td><td>2014 年
3 月 20 日</td><td>①講義科目
<table><tr><th>配当年次</th><th colspan="2">科 目 名</th><th>単位数</th><th>開講学期</th><th>備考</th></tr><tr><td>2</td><td>♪</td><td>心理学英語講読 A</td><td>2</td><td>学期</td><td>注２</td></tr><tr><td>2</td><td>♪</td><td>心理学英語講読 B</td><td>2</td><td>学期</td><td>注２</td></tr></table>（注２）♪を付した科目は推奨科目である。推奨科目は卒業に必須ではないが２年次に１科目の履修を推奨するものである。</td><td>①講義科目
<table><tr><th>配当年次</th><th colspan="2">科 目 名</th><th>単位数</th><th>開講学期</th><th>備考</th></tr><tr><td>2</td><td></td><td>心理学英語講読 A</td><td>2</td><td>学期</td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td>心理学英語講読 B</td><td>2</td><td>学期</td><td></td></tr></table></td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>ページ</th><th>変更日</th><th>新</th><th>旧</th></tr>
<tr><td>P.47</td><td>2017 年
3 月 21 日</td><td>〔９〕卒業論文未提出者・不合格者の９月卒業について

・上記期日に未提出または審査結果が不合格の場合、３月卒業予定の学生と同じ１月の期日に改めて提出することで、３月卒業の可能性がある。</td><td>〔９〕卒業論文未提出者・不合格者の９月卒業について

・上記期日に未提出または審査結果が不合格の場合、一般の学生と同じ１月の期日に改めて提出することで、３月卒業の可能性がある。</td></tr>
<tr><td>P.48</td><td>2014 年
3 月 20 日</td><td>心理学科科目部門別一覧
科 目 名 単位数 配当年次 開講
研究法・英語講読
質的研究法 2 3 学期
応用統計学 2 3 学期
♪ 心理学英語講読 A 2 2 学期
♪ 心理学英語講読 B 2 2 学期</td><td>心理学科科目部門別一覧
科 目 名 単位数 配当年次 開講
研究法・英語講読
質的研究法 2 3 学期
応用統計学 2 3 学期
心理学英語講読 A 2 2 学期
心理学英語講読 B 2 3 学期</td></tr>
<tr><td>P.48</td><td>2016 年
3 月 22 日</td><td>心理学科科目部門別一覧
科 目 名 単位数 配当年次 開講
教育心理学・発達心理学領域
生涯発達心理学（乳幼児） 2 2 学期
生涯発達心理学（児童） 2 3 学期
生涯発達心理学（乳幼児・児童） 2 3 学期
…</td><td>心理学科科目部門別一覧
科 目 名 単位数 配当年次 開講
教育心理学・発達心理学領域
生涯発達心理学（乳幼児） 2 2 学期
生涯発達心理学（児童） 2 3 学期
(新設)</td></tr>
<tr><td>P.48</td><td>2015 年
3 月 20 日</td><td>心理学科科目部門別一覧
科 目 名 単位数 配当年次 開講
臨床心理学・人格心理学領域（右側）
発達と障害の臨床心理学 2 2 学期
健康心理学 2 3 学期
犯罪心理学 2 3 学期
認知行動療法 2 3 学期
精神医学 2 3 学期
心理臨床動作学 2 3 学期
…
社会心理学・産業心理学領域
異文化間心理学 2 2 学期</td><td>心理学科科目部門別一覧
科 目 名 単位数 配当年次 開講
臨床心理学・人格心理学領域（右側）
（新設）
健康心理学 2 3 学期
犯罪心理学 2 3 学期
認知行動療法 2 3 学期
精神医学 2 3 学期
（新設）
…
社会心理学・産業心理学領域
（新設）</td></tr>
</table>

ページ	変更日	新	旧
	2018 年 3 月 20 日	履修要項の公認心理師の項	（新設項目）
	2018 年 3 月 20 日 (毎年更新)	履修要項の心理学部専任教員一覧の項	（新設項目）